

2019(平成 31)年度 事業計画書

社会福祉法人十字の園

2019(平成 31)年度 事業計画基本方針

十字の園理念 「夕暮れになっても光がある。(旧約聖書ゼカリヤ書 14 章 7 節)」
「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」

2019 年度方針 「創立の精神^{こころ}から、新たな福祉に^{チャレンジ}挑戦」

社会福祉法人十字の園は、「夕暮れになっても光がある」という聖書の言葉を理念として掲げています。今、世界はグローバル化の中でボーダレスな社会に向かっています。自然災害や格差、急速な社会変化の中で生まれる様々な矛盾、苦悩、悲しみ及び困難に直面した人々に私たちは向き合い、イエス・キリストに倣った福祉の業を通じて理念の示す世界の実現を目指します。そして、「夕暮れになっても光がある」の言葉を基に「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります」という理念を実践してまいります。

2019 年度は、理事長の交代という組織として大きな転換点をむかえます。社会環境が急速に変化する中で、十字の園が大切にしてきたものが失われないよう、今まで以上に理念の実践に取り組んで行かなくてはなりません。創立に携わった方々を知る人が少なくなり、役職者が、その時代や精神を語る事が増々難しくなっています。これまでの理事長が創立の精神（こころ）の継承に力を注いで下さった事を、これからは具体的に組織として継承して行くためにも 2019 年度は大切な年となります。

これらのことから以下の方針を定め、社会福祉事業並びに地域貢献活動において皆様と喜びを分かち合い、地域福祉の向上に努めてまいります。

1. 創立の精神（こころ）を受け継ぐための実践

社会福祉法人十字の園は、創立の精神（こころ）を受け継ぎ、具体的行動にしていくために 2018 年度に行動規範を定めました。今年度はその浸透と周知を図るために携行ができる『社会福祉法人十字の園職員ハンドブック』を作成します。また、管理者が様々な機会に理念や創立の精神（こころ）を語る事ができるようになるために、法人管理会議において「理念を学ぶ会」を実施し、各拠点においては、施設の礼拝や会議の時に、施設長、課長が理念や創立の精神（こころ）を伝える事を通じて、法人全体が理解を深め、キリスト教精神に立った福祉の実践を行う事ができるようにします。

2. 新しい組織体制への改変

創立の精神（こころ）を受け継ぎつつ新たな社会福祉法に求められる体制を整備するために、法人内組織の部門制度を改変し、各部門の取り組みが相互に連動し効率的に進められるようにします。また、今年度は、法人の会計管理の精度を高める取り組みをします。法人組織は前年度と同様に 3 地区制（浜松地区・御殿場地区・伊豆地区）で進め、浜松地区においては、3 拠点の統合を図るために、今年度は事務部門の統合を図り、一体的に財務管理体制を整備し、御殿場地区、伊豆地区においても事務部門の強化と統合に取り組みます。

3. 地域との共生社会の実現

地域において長い実績を築いてきた法人として、更に信頼され、期待される法人になります。浜松地区は、前年度に行った 3 施設総合見学会を発展させ、より多くの方に知って頂く取り組みを行います。御殿場地区は、2 つの包括支援センターを中心に、地域との関わりを更に深めます。伊豆地区のうち、伊豆高原十字の園においては、対島地域ふるさと協議会の連携強化を進めます。また、伊東養護との連携を強化します。松崎では、障がい者支援の活動を地域に広げるように取り組みます。

4. 採用・人材育成の取組と研修の連動による働き甲斐の創出

職員評価制度を検証しつつ継続し、採用、育成、働き甲斐や働き続けられる職場作りを進めるため組織変更を行い、給与体系を含む職員待遇の見直しを行います。それにより、魅力があり、職員一人ひとりが活躍でき、長く働き続けられるよう取り組みます。また、専門部会を各専門職に分けて整備し、質の向上と充実に取り組みます。

5. 内部管理体制の整備と中長期計画の策定により経営の健全化に向けて取り組む

内部管理体制の整備が遅れているコンプライアンスに関する規程と体制、リスク管理に関する規程と体制、職務権限・職務分掌の作成を図ります。

中長期計画については、2019年度では、浜松地区は浜松十字の園の建替えと事業統合、御殿場地区では建物の老朽化に伴う整備と新規事業、伊豆地区では養護老人ホームの移転新築事業の施設整備、備品整備について検討を進め、2020年～2022年の3カ年の中期計画を策定します。また、固定資産の整備・更新計画を策定します。

社会福祉法人十字の園 理事長 鈴木 淳司

社会福祉法人十字の園 行動規範

社会福祉法人十字の園の理事並びに職員は、法人の理念の実現を目指し、キリスト教精神に立って、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して、総合的に提供されるように創意工夫します。

利用者が、個人の尊厳を保持し、地域社会で自立した生活を営むことができるように支援します。

その為に法人の理念を基本姿勢とし、以下の規範を遵守して行動します。

【社会福祉法人十字の園 理念】

「夕暮れになっても光がある」（旧約聖書ゼカリヤ書 14 章 7 節）

「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります」

【行動規範】

- ・私たちは、一人ひとりの命と個性と権利を大切にします。

私たちは、一人ひとりの命を大切にし、多様性を認め合い性別、年齢、身体や精神状況、家庭環境などで差別をしません。一人ひとりが平等で自由であることを深く認識し、プライバシーを守り自己決定を最大限に尊重した支援に努めます。命とは、一人ひとりに神さまから与えられたかけがえのない大切な命です。

- ・私たちは、支援の必要な方に積極的に歩み寄り、必要な支援を届けます。

私たちは、当たり前前の支援やしなければならない支援を行うだけではありません。多くの困難を抱えた方、支援の難しさのある方を断ることなく、さらに支援が行き届いていない方へ心に向け支援します。そして、支援できるようチーム力を高め創意工夫し、また、地域福祉を推進していきます。そこから湧き起こる喜びや感動が私たちの喜び、糧であります。

- ・私たちは、常に自己研鑽に励み、互いに力を発揮し合い協力して支援します。

私たち一人ひとり、それぞれに賜物を授かっています。利用者のより良く、その人らしく「生きる」を支えるため、また、法人の理念の実現を図るため、主体的に自分自身のスキルや能力などを鍛え磨き、十字の園の職員として協働意思を持ち十分にコミュニケーションをとり、互いに力を発揮し合い支援し続けます。

- ・私たちは、安心、安全な職場環境を整えます。

私たち一人ひとりが神さまから十字の園に招かれた大切な一員です。職員誰もが当事者意識をもち主体的に、また、お互いに認め合い支え合って安心、安全な職場環境を築き、整えるよう努めます。

- ・私たちは、誠実で公正かつ適正な経営を行います。

十字の園は、社会福祉法人として高い公益性が求められます。地域に信頼される法人として法令遵守を徹底するとともに、必要な支援をし続けられるように、また、職員が安心して働き続けられるよう誠実で公正かつ適正な経営に努めます。

2019年2月22日 制定

社会福祉法人十字の園 2019年度事業計画書

『わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。』(ヨハネによる福音書15章)
『夕暮れになっても光がある』(ゼカリヤ書14章)

I. 法人事業計画

1. 2019年度事業計画基本方針(重点課題)

- ① 創立の精神(こころ)を受け継ぐための実践
- ② 新しい組織体制への改変
- ③ 地域との共生社会の実現
- ④ 採用・人財育成の取組と研修の連動による働き甲斐の創出
- ⑤ 内部管理体制の整備と中長期計画の策定により経営の健全化に向けて取り組む

2. 重点課題への取り組み

- ① 創立の精神(こころ)を受け継ぐための実践
 - a) 行動規範の周知と浸透を図るため、『社会福祉法人十字の園職員ハンドブック』を作成する。
- ② 新しい組織体制への改変
 - a) 理事長及び理事の交代による新体制での組織運営を早期に確立する。
 - b) 浜松、御殿場、伊豆の3地区制への再編統合をさらに推進し、各地区に総括理事を配置して組織を運営する。
 - c) 浜松、伊豆地区は事務部門の統合を推進し、効率化と質の向上を図る。
 - d) 法人管理会議の下に改編した部門を設置し、担当する理事等が目標計画を定め管理し活動する。
- ③ 地域との共生社会の実現
 - a) 浜松地区 総合見学会をさらに充実して開催し、地域の福祉介護資源としての周知浸透を図る。
 - b) 御殿場地区 地域の福祉課題の早期発見、対応及び解決に向け地域包括ケアシステムに取り組む。
 - c) 伊豆地区 地域(伊豆高原対島地域ふるさと協議会)と連携し、ボランティアなど地域住民と共に地域共生社会の実現に向けた活動を行う。
- ④ 採用・人財育成の取組と研修の連動による働き甲斐の創出
 - a) 職員一人ひとりにとって、魅力ある職場で活躍でき、長く働き続けられるよう取り組む。
 - b) 人財育成・研修部門
 - ・法人研修委員会 階層別の企画実施、研修補助制度等を整備し自己啓発を促進する、階層別研修のシラバス作成、研修の体系化を進め階層別研修の充実を図る
 - ・人財育成制度改革プロジェクト 給与体系の見直し、待遇格差(同一労働同一賃金)の是正
 - ・人材採用・広報委員会 HPをリニューアルし、各事業所等のSNSとリンクさせ活用し、求人にもつなげる、奨学金制度を整え周知を図る、外国人人材採用に向けて取り組む、機関誌「ぶどうの木」のリニューアル
 - c) 専門職部門
 - ・各職能の課長職が主体的に部会を運営する。
 - ・給食、リハビリ、相談員ケアマネ部会、介護部会(2019年度新設)
専門職能における課題に取り組み、地区、施設及び職員相互の連携と専門性の向上を図る。
 - ・財務・経理部会、総務部会 事務部門の総合力・専門性のさらなる向上と効率化を図る。
- ⑤ 内部管理体制の整備と中長期計画の策定により経営の健全化に向けて取り組む
 - a) 内部管理統制部門として3つに改編する。
 - ・リスクマネジメント委員会 委員会の設置、規程の整備、地区・施設・本部の連携を強化する。
 - ・コンプライアンス委員会 コンプライアンスの徹底、委員会の設置、内部通報・相談・提案窓口を設置する。
 - ・内部監査部 基準指針、各規程等に則り拠点の内部管理状況を実査し確認・助言・指導する。
 - ・職務権限、職務分掌を明確にする。
 - b) ハラスメントの防止・意識改革をおこない、関連研修を実施する。
 - c) 中長期計画の策定
 - ・2020年からの3か年の事業展開、施設設備整備、大規模修繕、固定資産取得・高額備品・機器

4. 2019年度 職員配置計画

(単位 ; 人)

		本部	浜松	御殿場	御殿場 アドナイ	伊豆 高原	アドナイ	松崎	オリブ	伊東 養護	第2 アドナイ	合計	前年計
常勤	専従	4	66	101	2	73	12	44	22	29	27	380	369
	兼務	2	7	24	2	44	9	7	21	35	9	160	155
非常勤	専従	0	50	58	0	61	17	23	5	13	28	255	255
	兼務	0	0	11	1	25	3	2	15	6	15	78	75
合計	専従	4	116	159	2	134	29	67	27	42	55	635	624
	兼務	2	7	35	3	69	12	9	36	41	24	238	230
常勤換算		6	94.6	136.4	3.4	116.6	24	34.8	21.6	35.6	47.1	520.1	528.2

5. 2019年度 資金収支予算

①事業活動による収支予算

区分	当年度 (2019年予算)		前年度 (2018年3次補正)		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	前年比
	千円	%	千円	%	千円	%
介護保険事業収入	2,833,327	81.45%	2,788,444	80.22%	44,883	101.6%
老人福祉事業収入	344,672	9.91%	340,603	9.80%	4,069	101.2%
就労支援事業収入	12,470	0.36%	12,470	0.36%	0	100.0%
障害福祉サービス等事業収入	232,088	6.67%	226,956	6.53%	5,132	102.3%
医療事業収入	20,270	0.58%	19,870	0.57%	400	102.0%
借入金利息補助金収入	323	0.01%	495	0.01%	△172	65.3%
経常経費寄付金収入	5,904	0.17%	54,528	1.57%	△48,624	10.8%
受取利息配当金収入	28	0.00%	28	0.00%	0	100.0%
その他の収入	29,434	0.85%	32,500	0.94%	△3,066	90.6%
事業活動収入合計	3,478,516	100.00%	3,475,894	100.00%	2,622	100.1%
人件費支出	2,404,145	69.11%	2,388,027	68.70%	16,118	100.7%
事業費支出	513,125	14.75%	504,261	14.51%	8,864	101.8%
事務費支出	287,154	8.26%	278,239	7.99%	8,915	103.2%
就労支援事業支出	12,470	0.36%	12,470	0.36%	0	100.0%
利用者負担軽減額	3,898	0.11%	3,978	0.11%	△80	98.0%
支払利息支出	8,030	0.23%	29,907	0.86%	△21,877	26.8%
その他の支出	17,205	0.49%	16,921	0.49%	284	101.7%
事業活動支出計	3,246,027	93.32%	3,233,803	93.04%	12,224	100.4%
事業活動資金収支差額	232,489	6.68%	242,092	6.96%	△9,603	96.0%

②資金収支予算実績年度推移

(単位；百万円)

	2019年度 予算	2018年度 実績見込	2017年度 実績	2016年度 実績	2015年度 実績
事業活動収入計(1)	3,478	3,475	3,371	3,310	3,319
事業活動支出計(2)	3,246	3,233	3,171	3,147	3,150
事業活動資金収支差額(3=1-2)	232	242	200	163	169
施設整備等収入計(4)	9	109	37	118	20
施設整備等支出計(5)	167	339	204	318	196
施設整備等資金収支差額(6=4-5)	△157	△229	△166	△200	△175
その他の活動収入計(7)	23	83	41	86	122
その他の活動支出計(8)	28	81	39	33	46
その他の活動資金収支差額(9=7-8)	△4	1	2	53	76
予備費支出(10)		7			
当期資金収支差額合計(11=3+6+9-10)	70	7	36	15	70

6. 2019年度 借入金等の計画

① 新規借り入れ実施計画

- ・ 特に無し

② 2019年度借入金返済計画

2019年度償還表							
施設名	借入先	元金償還金	利子	元金補給	利子補給	年度末残高	自己資金
浜松 十字の園	静岡銀行18	3,324,000	286,308	0	0	44,183,000	3,610,308
御殿場 十字の園	静岡銀行14	4,680,000	468,135	0	0	41,920,000	5,148,135
	静岡銀行16	3,996,000	293,930	0	0	46,680,000	4,289,930
	静岡銀行17	1,500,000	73,815	0	0	11,875,000	1,573,815
御殿場 アドナイ館	福・医機構 00	5,795,000	57,950	2,897,500	28,975	0	2,926,475
伊豆高原 十字の園	静岡銀行18	52,488,000	3,378,370	0	0	564,200,000	55,866,370
	静岡銀行11	11,640,000	1,508,987	0	0	128,060,000	13,148,987
アドナイ館	静岡銀行13	6,000,000	251,310	0	0	18,000,000	6,251,310
松崎 十字の園	福・医機構 02	11,250,000	571,200	5,250,000	294,000	22,500,000	6,277,200
オリブ	福・医機構 02	2,750,000	142,800	1,750,000	98,000	5,500,000	1,044,800
第2アドナイ 館	静岡銀行18	5,760,000	371,166	0	0	61,990,000	6,131,166
	静岡銀行09	4,102,000	462,589	0	0	38,980,000	4,564,589
合計	福祉医療機構	19,795,000	771,950	9,897,500	420,975	28,000,000	10,248,475
	静岡銀行	93,490,000	7,094,610	0	0	955,888,000	100,584,610
	合計	113,285,000	7,866,560	9,897,500	420,975	983,888,000	110,833,085

③ 2019年度ファイナンスリース返済計画

単位；円

施設名	物件	年間支払額	年度末リース残高
法人本部	給与・財務（パソコン・サーバー）	1,464,480	3,905,280
御殿場	有形リース資産（キャラバン2055）	513,600	1,027,200
御殿場	有形リース資産（キャラバン2056）	624,000	1,976,000
御殿場	無形リース資産（ソフトウェア・サーバー）	702,432	643,896
伊豆高原	有形リース資産（サーバー）	733,536	2,139,480
伊豆高原	無形リース資産（ソフトウェア）	677,808	1,976,940
アドナイ	車両（ハイエース5245）	380,800	0
松崎	有形リース資産（省エネ改修設備）	10,780,128	136,548,288
松崎	有形リース資産（介護記録システム）	1,014,120	2,028,240
松崎	有形リース資産（電話コール）	1,824,768	3,953,664
松崎	有形リース資産（ビルエネルギーマネジメント）	485,460	1,860,930
オリブ	有形リース資産（介護記録システム）	1,014,120	2,028,240
合 計		20,215,252	158,088,158

7. 施設設備・固定資産整備、修繕計画、その他特別事業について

① 浜松十字の園

厨房備品 200 万円（保存食用冷凍庫、野菜用スライサー）の更新、勤怠管理システム更新
パソコン Windows7 更新・増設、

② 御殿場十字の園

特殊浴槽 2 台の更新 1000 万円（補助金申請予定）、排せつ用介護リフト 4 台導入 200 万円
配膳車の見直し又は更新（2 台～3 台）150 万円、居住環境の整備 100 万円、
身障デイの改修（便座型トイレに更新）100 万円、デイ送迎リフト車 1 台、訪問車両軽 2 台 500 万円
御殿場アドナイ館エレベーター保全修理 160 万円

③ アドナイ館 デイ乾燥機室増設 350 万円、ボイラー更新 200 万円

④ 松崎十字の園 真空包装機 120 万円、車両 180 万円（リース）

⑤ 伊東市立養護老人ホーム

車いす対応車両 200 万円、居宅車両 100 万円（リース）、建物設備補修は市と協議調整する

⑥ 第2アドナイ館 あんき事業移行に伴うスプリンクラー補助金返還 450 万円

II. 地域福祉及び公益的取組の推進

① 浜松地区

- ・浜松市北区子供チャレンジお仕事体験に参加し、子供たちの福祉介護への関心や理解普及を図る
- ・施設の総合見学会を開催し、地域住民、介護福祉関係者に福祉資源の見える化を推進する
- ・認知症カフェの開催
(浜松十字の園)
- ・聖隷クリストファー高校職事学習、奉仕活動（労作）の受入れ
- ・実習受入（福祉・看護・栄養士等の教育機関）・ボランティアの受入・中学校ボランティア受入（オリエンテーションの中で十字の園のDVDを使い、福祉の実践例を紹介している）。
(アドナイ館)
- ・デイ利用者と地域の幼稚園園児との交流会、・地域のこども園園児とケアハウス入居者との交流
- ・細江町文化祭に参加して地域との交流を図る、・湖東地区の夏祭りに参加し交流を図る
- ・北区ほそえ市民ふれあい広場（バザー）に参加し交流を図る、介護福祉系大学実習生受入れ、中学生の職場体験学習の受入れ
- ・地域へ、ソーシャルワーク機能を展開（福祉なんでも相談）

(第2アドナイ館)

- ・地域カフェ、サロンの開催、講座などを企画、・デイ事業所を地域に開放し運動の機会を提供、・バザーの開催、・ボランティアの受け入れ、・中学生の介護体験受入

② 御殿場地区

(御殿場十字の園)

- ・地域の介護力向上を目指し介護職員初任者研修を開校、施設専門職員が講師を担当
- ・小学生の福祉教育、中高生の職業体験やボランティア及び実習生を積極的に受け入れ福祉人材の育成を図る
- ・在宅家族介護者教室（絆の会）を回開催し、在宅家族の介護力の向上や交流を図っている

③ 伊豆地区

(伊豆高原十字の園)

- ・伊東市・市社協等と連携した地域活動支援事業(居場所づくり等)・介護予防支援事業の実施、地域交流ホールの無料貸し出し、・対島地域ふるさと協議会と連携した認知症の勉強会、サロンなどへの協力(送迎含む)、・計画的な介護体験の実施、

(伊東市立養護老人ホーム)

- ・伊東市立大池小学校4年生との交流会、・ショートトの緊急受入れ(DV等)・デイサービス事業所での地域住民の参加の行事の企画、開催

(松崎十字の園)

- ・在宅利用者等の緊急(虐待等の対象者)受け入れ・地域ふれあい広場への出品、・地域園児、生徒、学生との交流、・町役場の包括支援センターに職員を派遣する

III. 2019年度 主要会議、研修、行事 年間計画

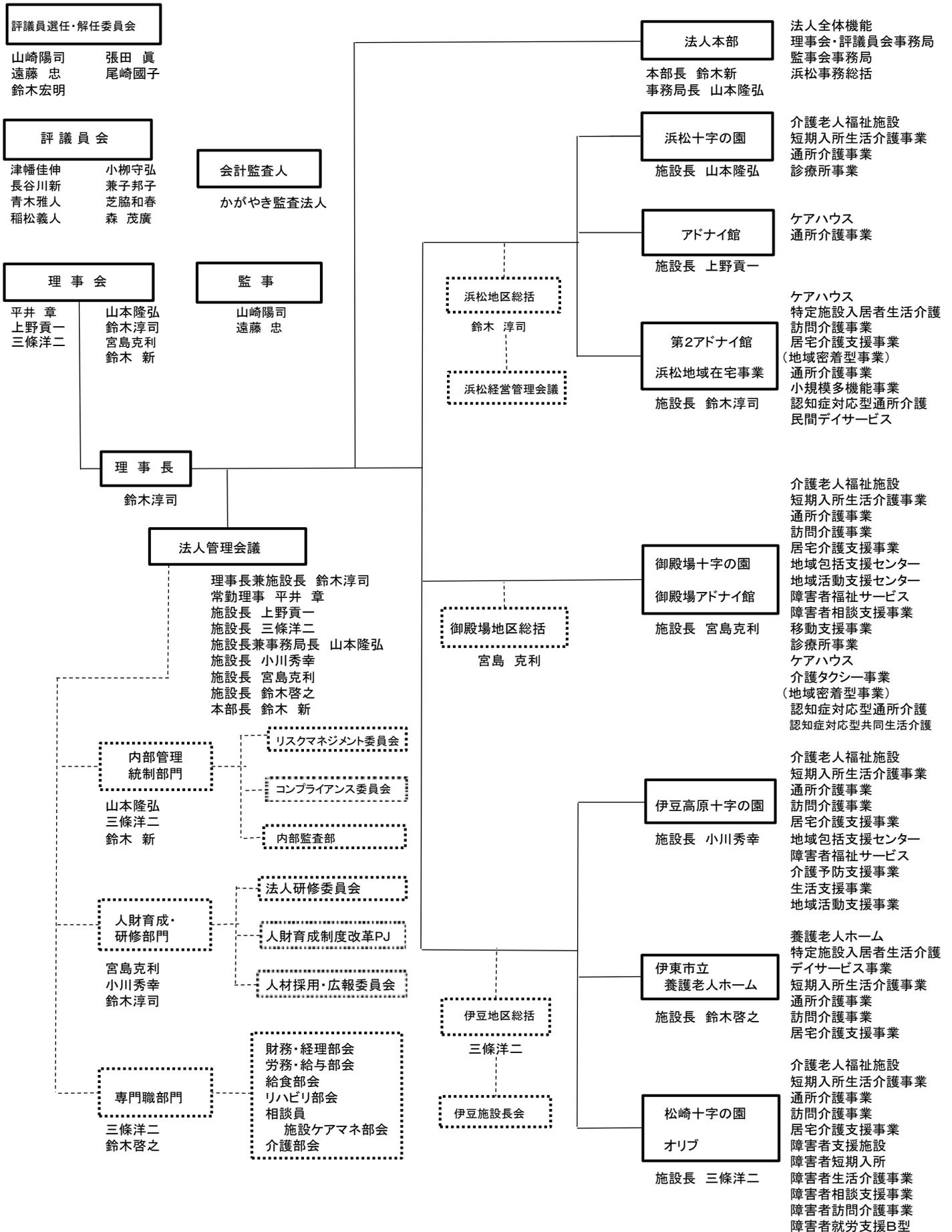
区分	理事会	評議員会	監事監査 監査法人監査	法人管理会議	法人職員研修	その他
4月		評議員選任解任委員会	24日監査法人	26日 第1回	新職員研修	辞令交付式 委嘱状交付
5月	27日 事業報告 決算・その他		7-16日 監査法人監査 監事監査 事業報告決算	20日 第2回		
6月	17日 理事長選任	17日決算報告 役員改選		24日 第3回	中堅研修Ⅰ	6月末決算資産登記
7月				26日 第4回	中堅職員Ⅱ	7/1機関誌発行 介護保険実地指導
8月				23日 第5回		8/26.27 内部監査
9月	27日業務執行 報告、その他			24日 第6回	リーダー研修	永年勤続表彰 9/4-6 内部監査
10月				25日 第7回	管理者研修 中途新任職員研修	
11月	29日補正予算 その他		監事定期監査	22日 第8回	12-13日 十字の園大会	
12月				20日 第9回		12/1 機関誌発行
1月				25日 第10回		20 創立記念日 27-31 予算ヒアリング
2月				25日 第11回	リーダーフォロー アップ研修	
3月	13日事業計画 当初予算他	23日事業計画 当初予算他		6日 第12回		

IV. 法人組織図

社会福祉法人十字の園 2019(平成31年)年度 法人組織図

2019年4月1日付

(主な事業内容)



法人本部 2019年度 事業計画

I. 基本理念

A. 精神的基盤

『夕暮になっても光がある』（聖書：ゼカリヤ書 14 章）と『人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。』を法人の基本理念とし、定款に掲げる「キリスト教の精神に立ってサービスを提供し利用者を支援する」ことを目的とする。また、職員一人ひとりが、新たに策定した十字の園行動規範に沿った業務遂行に努める。

1. 創立の精神（こころ）を受け継ぐための実践。

- ・朝の礼拝に参加する。朝礼を行い「日々の聖句」を復唱する。

2. 新しい組織体制への改変

- ・各地区の統合に向けた活動を円滑にする為に、情報の整理・統合を行い、共有していく。
- ・新たな理事長及び役員体制に対応し、法人本部組織を改編する。

3. 地域との共生社会の実現

- ・浜松地区で実施される3施設総合見学会の発展拡大に協力する。
- ・浜松地区施設の地域活動、催し物等に参加・協力ができるように体制を整える。

4. 採用・人材育成の取組と研修の連動による働き甲斐の創出

- ・職員が安心して長く働けるように時代に沿ったルール・規程の策定及び見直し等を検討していく。

5. 内部管理体制と中長期計画の策定により経営の健全化に向けて取り組む

- ・内部管理体制適正化の為に必要な環境を整備（コンピューター、ソフトウェア等）する。

II. 事業計画

1. 労務・人事管理

- ・浜松地区事務の朝礼や会議前に行動規範を復唱し、十字の園の職員であることの自覚を促す。
- ・事務処理の効率化、適正化を目指し、新しい技術・知識を学び、実践していく。
- ・心身の健康を守る為、浜松地区安全衛生活動の一体化を目指す。
- ・2020年度の介護職新卒採用6名を目指して、採用活動を推進する。
- ・課長職による法人労務・給与部会を主管し運営する。

2. 財務

- ・現状の経理業務の実務を見直し、効率化できるポイントを探し改善する。
- ・消費税率引上げに伴いシステムの更新等必要な対策を実施する。
- ・予算書の作成・管理方法について検討する。
- ・会計に関する研修に積極的に参加し、必要な知識を身につけ、実際の業務に活かす。
- ・課長職による財務・経理部会を主管し、運営する。

3. 総務

- ・パソコン・サーバー等システムの現状を確認し、管理を一括して行う。
- ・契約書・稟議書等の現状を確認し、管理方法を早急に検討する。

III. その他（修繕・固定資産備品購入予定）

100万円以上の整備、修繕計画は特になし。

特別養護老人ホーム 浜松十字の園 2019 年度事業計画

I. 基本理念

A. 精神的基盤

1. キリスト教の精神に立って、法人理念「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」に基づき、事業を行う。
2. 聖書の言葉に触れ、愛と奉仕の姿勢を意識し、施設理念「今、私の前にいる、その人の、すべてを、大切にします」に基づき、利用者一人一人が生き生きと暮らしていけるようサービスを提供する。

B. 運営方針

1. 浜松地区組織再編の円滑な移行

- ・課長の交代と組織体制が大きく変わる中で、従来のカタチにとらわれず、効率的で実効的に各職場の業務が行われるよう、職場間連携を踏まえた業務内容や手順の見直しと実施に取り組む。
- ・2020 年度からは課長職が現状の施設長の役割を担う計画があるため、役職者の職務分掌や権限の見直しと役職者の育成に取り組む。

2. チーム力の向上とケアの質の向上

- ・社会福祉法人十字の園行動規範の周知と浸透を図る。
- ・個人スキルの把握と個別育成計画の作成実施。
- ・360 度評価を活用したチームで個人を育成していく仕組み作りと実施。

3. 健全経営への取り組み

- ・予算や稼働率、常勤換算数などの数値目標と実績の差異、今後の見通しや対応内容を課長・主任（在宅と事務はリーダーを含む）で共有し、自分のこととして全体に関わっていく風土を整える。
- ・超過勤務や有休取得の状況をリーダー、主任、課長で共有し、今後の見通しや対応を検討・実施する。
- ・特養施設改修計画の検討を再開し、利用者にも職員にも喜ばれる環境作りの実現を進める。

II. 事業計画

A. 運営目標・事業計画

1. 特別養護老人ホーム

① ケアの質の向上を図る。

- ・オンライン動画研修委員の設置を継続し、動画研修の効果を高め介護技術の向上を図る。
- ・サービス基準指針の見直しを行う。
- ・業務マニュアルの作成と整理を行う。
- ・おやつセレクトにより、食に対する楽しみや自己決定に対する支援を行う。

② 働く環境を整える。

- ・「ありがとうカード」を活用し、職員間のコミュニケーションの促進を図る。
- ・2階リフト浴槽を活用し、更なる有効活用の検討と実施を行う。
- ・有休の年間5日以上取得の達成と超過勤務時間の偏りと時間数の是正に努める。

③ 稼働率の向上を図る。

- ・年間目標稼働率 98.4%の達成に取り組む。
- ・転倒、転落等による重大事故削減に努める。事故による受診件数を年間 17 件以下に抑える。
- ・水分摂取量を把握し、脱水による入院者撲滅に努める。年間延べ入院日数を 375 日以下に抑える。
- ・医療的ケアを必要とする入所希望に対応できるよう、必要とされるケアや観察のポイントを看護職と共有する。

- ・医師との連携を深め、看取り加算算定率の向上を図る。
- ・施設入所ニーズへの迅速対応と空きベッド削減のために、営業活動を充実する。

2. 短期入所

① ケアの質の向上を図る。

- ・介護業務担当、事務業務担当を分担することで、介護業務の充実を図る。
- ・利用者および家族の声に応じていくケアを職員全員が意識し、更なる信頼関係の構築を図る。
- ・「興味・関心シート」の内容をケアプランへ反映し、個別ケアの充実を図る。

② 稼働率の向上を図る。

- ・専従の相談員を配置し、問合せなどへより迅速に対応し、利用に繋げていくよう努める。また、事務作業の効率化を図り、超過勤務の削減に努める。
- ・特養入所を視野入れ、更に看護、相談員と連携し、基本的に「断らない」姿勢を大切にし、利用に繋げていくよう努める。

3. 通所介護

① ケアの質の向上を図る。

- ・利用者の「大切にしていること」を引き出し、その内容をケアプランに反映し、個別ケアの充実を図る。
- ・チーム力を更に高めるために多職種連携の強化と業務内容の定期的な見直しを行う。
- ・各利用者の嚥下状態や喫食状態等を観察し、状況を定期的に家族や担当ケアマネと情報共有する。
- ・食と栄養バランスなどを定期的に家族やケアマネに発信し、必要時に迅速な対応ができるよう努める。
- ・食事のセレクトメニューを見直し、主菜にも反映できるよう努める。
- ・利用中の状況や変化を詳細に分かりやすく家族や担当ケアマネに伝え、更なる信頼関係構築に努める。
- ・家族からの相談事に柔軟に対応すると共に、気軽に相談していただける機会を作る。

B. 数値指標

	特 養	短 期	通 所	拠点事業活動収入計
利用定員	120 人	20 人	22 人	
利用者延数	43,218 人	6,369 人	5,593 人	
1 日平均利用者数	118.1 人	17.4 人	18.1 人	
稼働率、稼働指数	98.4%	87.0%	82.0%	
稼働日数	366 日	366 日	310 日	
単価（一人一日当たり）	11,396 円	10,835 円	9,342 円	
介護保険事業収入	492,400 千円	68,920 千円	52,200 千円	620,875 千円
職員数（常勤換算）	72.3 人	13.2 人	9.1 人	94.6 人

III. 事業種別・規模

- ・介護老人福祉施設 [特別養護老人ホーム] (120 名)
- ・短期入所生活介護および介護予防短期入所生活介護 (20 名)
- ・通所介護事業および介護予防・日常生活支援総合事業 (22 名)
- ・診療所

IV. 職員について

A. 配置計画

職種区分	事業名	施設長		事務員		相談員		介護専門 支援員		看護師		介護士		訓練士能 師		医師		栄養士		調理師		介助員		その他		合計		
		専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	
介護福祉施設	常勤		1	4		1	1	1	1	6		36		1				2						1		52	3	
	非常勤									1		12		3		4								9		7	36	0
短期入所	常勤		1	1		1				1		5													1		9	1
	非常勤									1		4												1		1	7	0
通所介護	常勤		1			1						2		2												2	5	3
	非常勤									2		3													2		7	0
合計		0	3	5	0	3	1	1	1	11	0	62	0	6	0	4	0	2	0	0	0	0	10	0	12	2	116	7

B. 職員組織について

施設管理	施設長 山本隆弘 診療所長 後藤幸一
浜松経営管理会議	山本隆弘、鈴木淳司、鶴見俊輔、三木義史、小杉佳弘、河出雅代、古橋美恵子、金原忍、鈴木宏明、金谷一作
特養運営会議	鶴見俊輔、三木義史、鶴見圭秀、鈴木清香、湊満子、榎林直明、奥村金太郎、山村静江、宮本隆久、天野由紀子、富田健義、畑中佳子、田中麻貴、鈴木貴士、永田昌代、加茂眞理
浜松地区在宅会議	鈴木淳司、小杉佳弘、古橋美恵子、安田匡豊
デイサービス会議	小杉佳弘、古橋美恵子、安田匡豊、塚田えり子、川端美香、山崎淳司、栗田洋平
防火管理者	鹿野勝幸
衛生管理者	加藤義孝、金原忍
苦情解決委員会	山本隆弘、鶴見俊輔、永田昌代、三木義史、第三者委員（野崎玲子、渡辺禎子）
入所判定委員会	山本隆弘、鶴見俊輔、永田昌代、尾上志保美、加藤義孝、外部委員（野崎玲子、渡辺禎子）

V. 年間事業（行事）計画

区分	内容
全体で行う行事	イースター、夏祭り、敬老会、クリスマス、新年会
各ユニット・事業所の行事	花見、新茶、七夕、敬老会、餅つき、クリスマス、新年会、節分、外出誕生会、家族会等
保健・医療・衛生管理	利用者健康診断（年1回）、職員健康診断（年2回）、大掃除、防虫消毒
職員研修	新人研修、現任研修、委員会主催研修、ハラスメント研修、外部研修
職員会議	年1回：職員全体会議 月1回：課長会議、特養運営会議、ユニット会議、給食会議、安全衛生委員会、優先入所判定委員会、事故対策委員会、感染症対策委員会、身体拘束適正化検討委員会 年2回以上：苦情解決委員会
保安防災対策	防災訓練（毎月）[火災想定・地震想定・夜間想定]、防災会議（毎月）
入居者自由参加行事	喫茶室（週4日）、お茶会、書道、民謡踊り、生け花、歌の会

VI. 固定資産購入、修繕等

購入：自動ブレーキ型車椅子、電動ベッド更新、デイ乾燥機更新、保存食用冷凍庫更新
野菜用スライサー更新、Windows7 搭載パソコン更新、勤怠管理システム更新

総合福祉施設 御殿場十字の園 2019年度事業計画

I. 基本理念

A. 精神的基盤

1. 聖書の「夕暮れになっても光がある」と「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」とを理念として、教会とつながりキリスト教の精神に立って、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫し、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるように支援する。
2. 聖書のみ言葉『喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい』を大切に、朝の礼拝で心を養い、職員が共通認識のもと一体となって、地域と協働しながら、利用者一人一人の人生に共感し、安心とその人らしい主体的な生活を支えるために、心豊かな「福祉の文化の創造」を目指し取り組む。

B. 運営方針

1. 利用者一人ひとりを大切に、その人らしい主体的な暮らしの実現を目指す。
2. 多様なニーズに対し断らないワンストップで対応できる拠点施設として、総合的に支援していく。
3. 職員の各専門性の向上とともに、働く意欲、チームワークを高めあう。
4. 安定した経営基盤を構築する。
5. 2025年を見据えながら施設や地域の課題に向け取り組む。

II. 事業計画

A. 運営目標・事業計画

<介護保険事業>

1. 介護老人福祉施設

- ①良質かつ均質なサービス提供を目指し、会議や研修の見直し、業務手順書の充実と浸透を図る。
- ②安心、安全、快適な居住環境の整備、5Sの徹底及びノーリフトケアに向け設備や環境を整える。

2. 短期入所

- ①送迎時や連絡帳を活用し細目に連絡、意向の把握等を行い、ニーズに即応し在宅生活を支援する。
- ②利用者にとって心地よい環境の整備に努め、また、転倒事故などの未然防止に努める。

3. 通所介護

- ①ひだまりデイをぐてんばデイに統合し、柔軟な提供時間、支援メニューの多様化等を図る。
- ②要支援者への運動器機能訓練などリハ機能の充実を図り、生きがいや自立支援に向け取り組む。

4. 訪問介護

- ①風通しの良い職場づくりに努めると共に、職員間の情報の共有化や介護技術の向上を図る。
- ②ニーズに対し断らない支援に向け職員の増員、記録関係の見直しや5Sを徹底し効率化を図る。

5. 認知症対応型通所介護

- ①職員の認知症に関する専門性の向上を図り、その人らしい暮らしが継続できるよう支援する。
- ②在宅での生活が継続できるよう他部署と連携し、全面的な生活支援に努める。

6. 認知症対応型共同生活介護

- ①開所5年が経過しマンネリ化しないよう初心を振り返り役割や意義等を職員間で改めて共有する。
- ②利用者の重度化や看取り対応の強化を図るため職員の資質向上や医療的ケアの充実に努める。

7. 居宅介護支援

- ①日常的にスーパービジョンを行い、また、職員一丸となって困難事例等を積極的に受け入れていく。
- ②職員の増員や医療機関と連携し、医療依存度の高い利用者などニーズに対し断らない支援に努める。

8. 地域包括支援センター

①地域ケア会議を増やし、また、「シズケアかけはし」の運用などを行い相談支援体制の強化、充実を図る。

②地域の高齢者問題への早期発見、対応及び地域の課題解決に向け地域包括ケアシステムを構築する。

<障害者総合支援事業>

9. 居宅介護、同行援護

①障がいの特性や難病の理解を深め、他職種や他機関と連携し障がい者への介護支援等の充実を図る。

②サービス提供の体制を充実し、利用者の社会参加を促進する。

10. 短期入所

①障がいに関する理解を深め安心・安全なサービス提供及び他部署と連携し活動の充実に努める。

11. 地域活動支援センター

①一人一人が主役となれ、安心できるオンリーワンの事業所に向けホスピタリティー等の浸透を図る。

②居宅介護や同行援護、短期入所など他事業所、部署と連携し、総合的な支援に努めます。

12. 移動支援

①円滑な外出支援や通院介助等を行い、地域での暮らしを支える。

13. 相談支援

①他職種や他機関との情報の共有を徹底し、一人ひとりと向き合い寄り添った支援に努める。

②重症心身障がい者の支援や就労支援A型など地域の課題解決に向け新規事業を検討する。

<その他の事業>

14. 診療所

①利用者へ積極的にコミュニケーションを取るなどし、状態変化の早期発見等に努め、また、他医療機関との連携を図るなどし、看取りや緊急時の対応強化を図る。

②年2回の感染症に関する研修会の開催及び標準予防策の徹底を図り、感染症の流行を防ぐ。

③機能訓練：機能訓練指導員の増員の検討やリハ設備の充実を図るとともに、介護職員への専門的支援や腰痛対策に取り組む。

15. 介護タクシー事業

①困難事例や緊急時の利用を積極的に行う。また、消費税改正にともなう運賃等を見直す。

16. ボランティアの受け入れ

①ニーズに即応するよう調整すると共に、行事等の補助や見守りボランティアを積極的に受け入れする。

17. その他

①夜間に開催していた研修や会議等を見直しし効率的、効果的に実施できるよう工夫するとともに、働きやすい職場環境を築く。

②研修体制等の体系化を進め資質の向上を図る。

③地域の介護力向上に向け介護初任者研修の継続開催を検討する。

④給食：丁度良い量や味付け、彩の良さに配慮し、ムラがなく安定的な食事の提供に努める。また、簡単で気軽に行える食のイベントを開催し食の楽しみを増やす。

⑤来客、電話対応等について相手が心地よくなるような対応を目指しマニュアル作成や浸透を図る。

⑥5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の徹底、壁紙の張替えや設備備品の更新を順次行い、清潔感のある居心地の良い施設環境を維持整備する。

⑦安全衛生おける職員からの相談体制の充実化及び腰痛予防を推進し「腰痛欠勤者ゼロ」を目指す。

B. 数値指標

	特養	短期	通所介護	認知通所	訪問介護	居宅介護支援	地域包括支援センター
利用定員数	107人	11人	45人	12人			
利用者延数	38,875人	3,630人	11,513人	3,120人	5,280時間	2,760人	
一日平均利用者数	106人	10人	31人	10人	14時間	月233人	
稼働率、稼働指数	99.27%	90.16%	69.90%	83.87%			
稼働日数	366日	366日	366日	310日	366日	12月	366日
単価(一人一日当たり)	11,383円	15,783円	8,562円	12,693円	4,089円	14,885円	
収入	442,524千円	57,294千円	98,569千円	38,955千円	21,590千円	41,618千円	57,105千円
職員数(常勤換算)	67.3人	6.5人	15.4人	4.7人	5.5人	6.5人	8.0人
	地域活動支援センター	障がい者短期入所	障がい者居宅介護	同行援護	障がい者移動支援	障がい者相談支援	介護タクシー
利用定員数	15人						
利用者延数	3,084人	180人	850時間	760時間	400時間	359人	2,000人
一日平均利用者数	12人	0人	2時間	2時間	1時間	月30人	5人
稼働率、稼働指数	85.00%						
稼働日数	258日	366日	366日	366日	366日	12月	366日
単価(一人一日当たり)	8,071円	19,178円	4,031円	3,828円	3,058円	24,889円	784円
収入	24,891千円	3,452千円	3,426千円	2,909千円	1,223千円	8,935千円	1,567千円
職員数(常勤換算)	4.5人	0.3人	1.4人	0.1人	0.1人	1.0人	0.3人
	グループホーム	事業活動収入計					
利用定員数	18人						
利用者延数	6,563人						
一日平均利用者数	18人						
稼働率、稼働指数	99.62%						
稼働日数	366日						
単価(一人一日当たり)	13,666円						
収入	89,691千円	900,095千円					
職員数(常勤換算)	14.8人	136.4人					

※収入は 介護保険事業収入、障害福祉サービス事業収入

III. 事業規模

介護老人福祉施設 (107)、短期入所生活介護 (11)、通所介護 (45) 認知症対応型通所介護 (12) 認知症対応型共同生活介護 (18)、訪問介護、居宅介護支援、各予防事業、地域包括支援センター2か所、地域活動支援センター(15)、居宅介護、身障短期、同行援護、相談支援、診療所、介護タクシー

IV. 職員について

A. 配置計画

職種区分	施設長	事務員		相生談員活		専支介門員援護		看護師		介護士		訓練士能		医師		栄養士		調理師		介助員		その他		合計				
		専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務			
介護福祉施設	常勤	1		4	1	1	1		2	4	35	2	1	1			1						1	47	8			
	非常勤								3	12	2			2									4	21	2			
ショートステイ	常勤		1				1			6														6	2			
	非常勤								1	2	2		1										1	4	3			
デイサービス	常勤				2	2				9	1	1													12	3		
	非常勤								1	3	3		1										2	1	6	5		
ホームヘルパー	常勤									3	1														3	1		
	非常勤									13															13	0		
居宅介護支援	常勤						7	1																	7	1		
	非常勤						1																		1	0		
地域包括	常勤				3		3		2																	8	0	
	非常勤																									0	0	
グループホーム	常勤						2		1	12	2															12	5	
	非常勤									6																6	0	
認知症デイ	常勤				1	1				2	1															3	2	
	非常勤								1	3																3	1	
身障地域活動	常勤					1				3	1															3	2	
	非常勤				1					2													1			4	0	
合計		1	1	4	1	8	6	11	5	11	5	11	12	2	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	8	2	159	35

B. 職員組織について

施設管理	施設長 宮島克利、診療所長 江藤秀顕
運営会議	宮島克利、杉山 潔、塚本りつ子、高橋雅昭、高木直也
責任者会議	宮島克利、杉山 潔、塚本りつ子、高橋雅昭、高木直也、池谷洋子、山本健太、猪越貴史、田代みどり、杉崎由宗、宮地秀明、小野真樹、勝俣和也、勝俣千絵、芹澤保憲、杉山かおる、武藤繁生、千田晶子、武山幸浩、大西由佳利
防火管理者	施設：芹澤保憲、高橋雅昭（副）、武藤繁生（副）、猪越貴史（副） グループホーム：高橋直輝
苦情解決委員会 (受付担当者)	宮島克利、塚本りつ子、猪越貴史、田代みどり、小野真樹、杉山かおる、武藤繁生、杉崎由宗、勝俣和也、勝俣千絵、芹澤保憲、宮地秀明、杉山潔、高橋雅昭、武山幸浩
衛生管理者	渡邊直美
苦情解決第三者	小松 保、中垣内紀子

V. 年間事業（行事）計画

区分	内 容
全体で行う行事	イースター、夕涼み会、敬老の日、クリスマス、召天者記念礼拝（施設）
施設ユニットの行事	花見、遠足、七夕、紅葉狩り、忘年会、もちつき（階）、新年会、節分、外出、誕生会 寿司パーティー、よりあい、家族懇談会等
通所介護の行事	花見、遠足、流しそうめん、バーベキュー、紅葉狩り、新年会、そば打ち、誕生会等
保健・医療・衛生管理	利用者健康診断（6月）、職員健康診断（6、11月）、インフルエンザ予防接種（12月）
職員内部研修	階層別内部研修、感染症対策、接遇マナー、虐待防止、認知症対応、他別紙研修計画に沿う
職員会議	運営会議（月2回）、責任者会議（月1回）、寮棟会議（毎月）、ユニット会議（月1回）、リスクマネジメント委員会（月1回）、サービス質向上委員会（月1回）
保安防災対策	防災会議（毎月）、防災訓練（毎月）
利用者自由参加行事	衣類販売、習字教室、陶芸教室、花の友の会、ふれあい広場、

VI. その他（修繕・固定資産購入等）

- ・1階、2階の特殊浴槽の更新(8,000,000円)
- ・排泄、入浴用介護リフト4台導入(2,000,000円)
- ・寮棟居室、フロアの環境整備(トイレ扉の改修、フローア壁紙張替え、テーブルや椅子、インテリア等の更新)(1,000,000円)
- ・送迎車両等の更新3台(通所介護リフト車両1台、訪問用軽自動車2台) 5,000,000円
- ・身障デイトイレの改修(フラット型トイレ⇒便座型トイレに改修)1,000,000円
- ・非常用発電機の更新、外壁改修工事の検討

軽費老人ホーム（ケアハウス）御殿場アドナイ館 2019 年度事業計画

I. 基本理念

A. 精神的基盤

1. 聖書の「夕暮れになっても光がある」と「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」とを理念として、教会とつながりキリスト教の精神に立って、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるように支援する。
2. 聖書のみ言葉から「それでアブラハムはその所の名をアドナイ・エレと呼んだ。これにより、人々は今日もなお『主の山に備えあり』と言う。」創世記22章14節。主が備えてくださったこの施設に住む者が、安心して心豊かに生活が出来るように、職員が朝の礼拝で心を養う。そして、入居者のきめ細かな生活支援に努める。

B. 運営方針

1. 入居者が明るく楽しく心豊かに生活できるよう支援する。
2. 入居者の余暇の充実や入居者同士の互助を促進し生活の質の向上を目指す。
3. 職員のソーシャルワーク実践力を高め、入居者の望む暮らしを支えるとともに、地域の様々な生活困窮者への支援に努める。
4. 職員の各専門性の向上とともに、働く意欲、チームワークを高めあう。
5. 入居希望者の増加を図り健全な経営に努める。

II. 事業計画

A. 事業目標（計画）

1. 利用者の健康維持、向上に努めます。
 - 1) 健康体操教室を月2回、散歩会を月1回は継続的に開催する。
 - 2) 要介護者等への日常生活支援サービスの充実及び他職種への連携を図る。
 - 3) 契約当時の家族や保証人等の高齢化に対し、再度、緊急時の対応や保証人の確認をする。
2. 生活の質を高めます。
 - 1) カラオケクラブ、茶話会（お菓子作り等）、気楽会（外食等）、春秋遠足、毎月の親睦会の充実を図り、楽しみながら入居者同士の交流の促進及び、体力維持や心の平安に繋げる。
 - 2) 買い物などの送迎サービスを週3回程度定期的に行う。
 - 3) 利用者同士の助け合いやボランティア活動を尊重し互助の関係を促進していく。
3. 入居待機者の確保に努めます。
 - 1) 御殿場十字の園ホームページや機関誌に、入居者・待機者募集と施設案内を掲載する。
 - 2) 市内医療機関や介護事業所及び県外へもパンフレット等を送付する。
 - 3) 待機者に対して定期的に状況確認や現在の待機状況等についてお知らせしていく。
4. 他職種、他事業所との連携の強化に努めます。
 - 1) 地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、各種医療機関、その他との連携の強化

B. 数値指標

利用定員数	30人	
利用者延数	10,980人	
一日平均利用者数	30人	
稼働率、稼働指数	100.0%	
稼働日数	366日	
単価(一人一日当たり)	5,739円	事業活動収入計
老人福祉事業収入	63,010千円	63,115千円
職員数(常勤換算)	3.4人	

Ⅲ. 事業規模

ケアハウス (定員 ; 30名)

Ⅳ. 職員について

A. 配置計画

職種区分		施設 管理者	事務 員	生相 談 員	介支 護 員	専門 看護 師	介 護 士	機 能 士	医 師	栄 養 士	調 理 師	介 助 員	そ の 他	合 計	
事業名		専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務
ケアハウス	常勤	1	1	1			1				1			2	2
	非常勤						1							0	1
合 計		0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	3

B. 職員組織について

施設管理	施設長 宮島克利
施設運営会議	宮島克利、杉山 潔、塚本りつ子、高橋雅昭、高木直也
職員会議	宮島克利、高橋雅昭、武山幸浩、千田晶子、杉山潔 (看護師)
防火管理者	芹澤保憲、高橋雅昭 (副)、武藤繁生 (副)、猪越貴史 (副)
苦情解決委員会 (受付担当者)	宮島克利、塚本りつ子、猪越貴史、田代みどり、小野真樹、杉山かおる、武藤繁生、杉崎由宗、勝俣和也、芹澤保憲、宮地秀明、杉山潔、高橋雅昭、武山幸浩
第三者委員	小松 保、中垣内 紀子

Ⅴ. 年間事業 (行事) 計画

区 分	内 容
全体で行う行事	花見、夕涼み会、園遊会、クリスマス会、新年挨拶会、餅つき大会
保健・医療・衛生管理	6月入居者検診 6月、10月職員検診 11月利用者・12月職員インフルエンザ予防接種
職員内部研修	施設見学研修、ケアハウス相談員研修
職員会議	職員会議月1回 運営会議月2回
	責任者会議月1回
保安防災対策	防災担当者会議 リスクマネジメント委員会 防災訓練 各月1回
自由参加行事	散歩会 (毎月)、気楽会 (隔月)、カラオケクラブ (毎月)、茶話会 (隔月)、親睦会 (毎月) 春秋遠足

Ⅵ. その他 (修繕・固定資産購入等)

- ・エレベーター保全修理

特別養護老人ホーム 伊豆高原十字の園 2019年度事業計画

I. 基本理念

A. 精神的基盤

法人の理念『人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります』の理解、実現を目指し、礼拝を守り、行動規範の浸透と周知、実行に努める。

B. 運営方針

1. 安心安全への取り組み：利用者に安心安全で快適な生活を提供するため、また、職員の質の向上のため、コンプライアンスの徹底とリスクマネジメントに取り組む。
2. 職場環境への取り組み：6S（整理、整頓、清潔、清掃、躰、作法）及びハラスメント予防を推進し、働きやすい職場環境を整える。
3. 地域に向けた取り組み：対島地域ふるさと協議会と連携し、地域共生社会に向け、ボランティアなど地域住民と共に具体的に推進する。

II. 各種の事業計画

A. 運営目標・事業計画

1. 介護老人福祉施設

生活支援室：入居者の安心・安全な生活の支援と、部署間の連携強化を図る。

看護室：入居者一人ひとりの貴重な人生に寄り添い、他職種と連携して安全安楽な生活が送れるよう支援する。

生活相談室：チームケアを念頭に各部署との連携強化を図り、入居利用者の意向に沿った生活の質向上にこだわりを持ち、地域と関わりながら満足度の高いサービス提供を目指す。

給食室：個々の職員のスキルアップを目指す。また、楽しみとなり、安全で家庭的な美味しい食事の提供を行い、利用者の生きる力・笑顔溢れる生活を支える。

事務室：業務の効率化を図ると共に、他部署、他事業所との連携を強化し、施設経営の黒字化を目指す。また、伊豆地区事務統合に向け、職員のスキルアップに努める。

2. 地域包括支援センター

地域包括ケアシステムの構築に向け、住民や関係機関とのネットワーク作りと多職種連携の強化を図り、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現に取り組む。

3. 居宅介護支援事業所

伊豆高原：利用者が在宅にて安心して地域社会の中で暮らしていけるよう支援の質の向上、知識を深めていき信頼される事業所作りを行う。

ケアセンター碧：利用者一人ひとりが、住み慣れた地域で最期まで暮らせるよう地域包括ケアシステムに向け、多様なニーズに対応できるよう取り組む。

4. 短期入所生活介護

利用者一人ひとりの想いを大切に、安全に安心して利用できる満足度の高い事業所を目指す。

5. 通所介護事業

介護予防運動機器の活用によってサービスの質を上げると共に、職員の研修参加や勉強会等の内容を充実させ、より良いケアの提供に努めて利用者・家族に対し満足度を向上させる。

6. 介護予防事業

地域支援事業・地域包括支援センター等と協力・連携を図りながら、現行の事業の検証を行い、内容の充実を図る。

7. 訪問介護事業

情報共有と他職種との連携を強化し、統一されたサービスの提供を通して満足と信頼を得られる事業所を目指す。

8. 配食サービス事業

安全・安心・美味しく・楽しく・栄養のある弁当作りを行い、食の確保・安否確認にて安心の絆・和を広げ、在宅生活継続を支える。

9. 生活支援事業

地域住民及び生活支援サービスを担う様々な事業主体と連携し、日常生活上の支援体制の充実、強化や高齢者等の生活を支える体制づくりを進める。

10. 移送サービス事業
2019年度は事業を中止。

B. 数値目標

事業名	介護老福施設	短期入所	通所介護	訪問介護	居宅（伊豆）	居宅（一碧）
利用定員数	90 人	10 人	27 人	人	人	人
利用者延数	32,610 人	3,650 人	7,775 人	19,200 時間	1,164 件	1,872 件
1日平均利用者数	89 人	10 人	25 人	52 時間	— 人	— 人
稼働率、稼働指数	99 %	100 %	92.5 %	— %	— %	— %
稼働日数	366 日	366 日	311 日	366 日	254 日	254 日
単価 （一日一人当たり）	13,604 円	12,823 円	8,395 円	2,991 円	13,230 円	12,980 円
収入（介護保険・障害福祉サービス事業収入）	443,620 千円	46,805 千円	65,270 千円	57,430 千円	15,400 千円	24,300 千円
職員数 （常勤換算）	67.5 人	6.7 人	11.6 人	11.7 人	3.2 人	4.2 人
事業名	地域包括	介護タクシー	介護予防	配食	生活支援	
利用定員数	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	
利用者延数	— 件	— 件	— 件	— 件	— 件	
1日平均利用者数	— 人	— 人	— 人	20 食	— 人	
稼働率、稼働指数	— %	— %	— %	— %	— %	
稼働日数	254 日	日	254 日	254 日	254 日	
単価 （一日一人当たり）	— 円	— 円	— 円	— 円	— 円	
収入（介護保険・障害福祉サービス事業収入）	37,600 千円	— 千円	8,000 千円	3,720 千円	5,500 千円	
職員数 （常勤換算）	7.8 人	— 人	1.8 人	0.6 人	1.5 人	
合計	事業活動収入計		707,126千円	職員数（常勤換算）		116.6 人

III. 事業種別・規模

介護老人福祉施設（定員；90名）、短期入所生活介護事業（定員；10名）、通所介護事業（定員；27名）、訪問介護事業、居宅介護支援事業、配食サービス事業、地域包括支援センター事業、障害福祉サービス事業（居宅介護、重度訪問介護、移動支援）、介護タクシー事業、介護予防事業（一般、総合事業短期集中サービスC、サロン、地域介護予防支援事業サービスC）、生活支援事業（生活支援コーディネーター）、地域活動支援事業（居場所づくり）

IV. 職員について

A. 配置計画

職種区分	施設長	職事員務		相生談員活		専支介門員援護		職看員護		職介員護		指訓機導員練能		医 師		栄管養理士・務		職調員理		介助員		その他		合 計			
		専 任	兼 務	専 任	兼 務	専 任	兼 務	専 任	兼 務	専 任	兼 務	専 任	兼 務	専 任	兼 務	専 任	兼 務	専 任	兼 務	専 任	兼 務	専 任	兼 務	専 任	兼 務		
事業名	常 勤	1		4		1		2		3		33	8			1		4						49	8		
	非常勤			2						1		5	4		2			5		4		4		23	4		
ショートステイ	常 勤		1		1					3		8					1		4					0	19		
	非常勤									1		3			2			5		4		4		0	19		
デイサービス	常 勤		1		1	1	3			1		3	1											5	6		
	非常勤									1		5		1								1		8	0		
ホームヘルパー	常 勤		1		1							5												5	2		
	非常勤											25												25	0		
居宅介護支援	常 勤		1		1			3																3	2		
伊豆高原十字の園	非常勤																							0	0		
居宅介護支援	常 勤		1		1			4																4	2		
ケアプランセンター碧	非常勤																							0	0		
地域包括支援センター	常 勤		1			3		2		1														6	1		
	非常勤							1																1	0		
生活支援事業 (居場所づくり含む)	常 勤		1		1																			1	1		
	非常勤				2																			2	0		
介護予防事業	常 勤		1		1									1										0	3		
	非常勤				1					2	1													2	2		
合 計		1	8	9	7	5	4	12	0	9	5	76	24	1	1	2	2	1	1	9	9	4	4	5	4	134	69

B. 職員組織について

施設管理会議	小川秀幸 鈴木貴雅 西島一恵 岩本佑太 重永仁美
施設運営会議	鈴木貴雅 岩本佑太 西島一恵 山田厚子 松崎和博 磯崎 亮 平野淳一 看護職員
在宅運営会議	重永仁美 土屋康美 植木三和子 杉山勢津子 三好かほり 西島一恵 平野淳一 富岡良太
防火管理者	磯崎 亮
衛生管理者	多田高徳
優先入所検討委員会	小川秀幸 岩本佑太 磯崎 亮 上嶋恵美 山田厚子 松崎和博 上田 彰(第三者) 看護職員
苦情解決第三者委員 連絡会	小川秀幸 重永仁美 岩本佑太 鈴木貴雅 西島一恵 磯崎 亮 第三者委員：上田 彰 (伊東教会牧師) 相磯英之 (市社協職員)

V. 年間事業 (行事) 計画

区 分	内 容
全体で行う行事	春のふれあいまつり、クリスマス礼拝、秋まつり、召天者を偲ぶ会、礼拝
施設ユニットの行事	お花見、端午の節句、七夕、敬老祝会、芋煮会、クリスマス、もちつき、新年会、節分、雛祭り、誕生会、外出・レクドライブ、お月見、ミニコンサート
通所介護の行事	お花見、七夕、敬老祝会、夏祭り、運動会、芋煮会、クリスマス、新年会、忘年会、節分、ひな祭り、散策、誕生会、サークル (絵画・園芸・手芸・おやつ・生け花)
保健・医療・衛生管理	入居者健康診断 (年1回)、職員健康診断、防虫消毒、安全衛生委員会 (毎月)
職員内部研修	全体勉強会、部署勉強会、新入職員研修、中堅職員研修
職員会議	全体会議 (年1回以上)、施設管理会議 (月1回以上)、施設運営会議 (月1回)、在宅運営会議 (月1回)、部署会議 (月1回以上)、サービス担当者会議 (随時)、事業所会議 (月1回)、苦情解決第三者委員連絡会 (年4回)、優先入所検討委員会 (年2回以上)
保安防災対策	防災訓練 [火災・地震・夜間想定] (毎月)、防災委員会 (年2回)
自由参加行事	喫茶麦の会、生け花、書道サークル、出張売店、衣類販売、読み聞かせ、おやつサークル
地域化推進活動	ボランティア懇談会、家族懇談会、対島地域ふるさと協議会、子ども食堂「風の子」

VI. 固定資産購入、修繕等

- 1) 施設；低床ベッド、移動式リフト、シャワーキャリー、シャワーストレッチャー
- 2) 短期；ウォシュレット
- 3) 通所；シャワーキャリー

軽費老人ホーム（ケアハウス）アドナイ館 2019年度事業計画

I. 基本理念

A. 精神的基盤

聖句「夕暮れになっても光がある」を掲げ、理念「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります」の実践を行う。ケアハウスは「一人ひとりがその人らしく生活し自立心を損なわない支援」を行う。デイサービスは「共に生き、信頼関係を大切に楽しく過ごせる空間と、自立支援に基づいた安全で確実な介護」の提供を行なう。

B. 運営方針

社会環境が変化する中で、ケアハウス、デイサービスの役割を地域で果たしていく。

1. ケアハウスは、入所者一人ひとりが自分らしい暮らしを大切に、安全で安心できる生活の支援を行う。
2. デイサービスは、利用者の在宅生活を見据え、サービス内容の充実を図り利用者・家族を支援する。
3. 職員の資質向上を目指し研修内容の充実、メンタルヘルスを含めた職場環境の整備を図る。
4. 西部地区施設の統合を整え、利用者、家族をはじめ、地域のニーズに応じて行く。

II. 事業計画

A. 運営目標・事業計画

1. 軽費老人ホーム（ケアハウス）

- ・安全で快適な生活のため施設整備を進める。
- ・個別支援を行うため相談支援体制の充実を図り情報の共有化に努める。
- ・無駄なく効率的職場環境を整えるため、物品管理をルール化する。

2. 通所介護（デイサービス）

- ・利用者にデイサービスへ来所される目的作りを図っていく。
- ・家族会の開催、ふれあい広場・文化祭へ参加し、利用者・家族・地域の方との関係を大切にする。
- ・事業所の環境整備・設備・備品更新を行い職場環境の改善を行う。
- ・各書類の整備と連絡ファイルはちょうじゅの導入行う。

3. 調理

- ・利用者に満足してもらえる食事の提供を行なう。
- ・衛生管理に努め、HACCP 義務化に向け整備する。
- ・栄養管理を行い、個別対応の拡充を図る。

B. 数値指標

	ケアハウス	通所	事業活動収入計
利用定員	50 人	30 人	
利用者延数	18,350 人	7,440 人	
1 日平均利用者数	50 人	24 人	
稼働率、稼働指数	100%	80.0%	
稼働日数	366 日	310 日	
単価（一人一日当）	4,958 円	9,488 円	
収入（介護保険・老人福祉事業収入）	90,994 千円	70,590 千円	166,746 千円
職員数（常勤換算）	11.5 人	12.48 人	23.98 人

Ⅲ. 事業種別・規模

軽費老人ホーム（ケアハウス）50名、通所介護 30名

Ⅳ. 職員について

A. 配置計画

職種区分	施設長	事務員		生活相談員		専門支援員		看護員		介護員		訓練士		医師		栄養士		調理員		介助員		その他		合計			
		専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務		
ケアハウス	常勤	1		1	1					2				1		4								7	3		
	非常勤									2						1							4	7	0		
デイサービス	常勤				3					4	3	1												5	6		
	非常勤							1	1	2	1		1			1						6	10	3			
合計		1	0	0	1	1	3	0	0	1	1	8	6	1	1	0	0	1	0	6	0	0	0	10	0	29	12

B. 職員組織について

施設管理者	施設長 上野貢一（6/1 鈴木淳司）
浜松経営管理会議	浜松地区施設長、施設課課長、在宅課課長
アドナイ会議	上野貢一、河出雅代、奥村敦司、安田匡豊
防火管理者	河出雅代
衛生推進者	豊田くみ子
食品衛生責任者	奥村敦司
苦情解決委員会	上野貢一（6/1 鈴木淳司）、河出雅代、赤池克始子、奥村敦司、安田匡豊 第三者委員 野崎玲子、渡辺禎子

V. 年間事業（行事）計画

区分	内容
全体で行う行事	朝の礼拝、納涼祭、希望の日、クリストファーこども園と交流会、入居者勉強会、クリスマス会、餅つき、バス旅行（春）、食事会（秋）、4月全員写真撮影
通所介護の行事	新年会、節句、納涼祭、敬老の日、クリスマス会、個別レク、誕生会、書道、茶道、運動会、音楽・園芸・アクティビティ、（リハビリ・口腔ケア等）
保健・医療・衛生管理	健康診断、インフルエンザ予防接種、メガネ相談、医師診察日、防虫消毒、福祉相談
職員会議	全体会議（年1回）、アドナイ会議（月1回）、給食・デイ・ハウス会議（月1回） 苦情解決委員会（毎月）、勉強会（月1回）、芳樹会役員会・総会（各年2回）
防災訓練	毎月「火災想定・地震想定・夜間訓練」、防災委員会（年2回）、防災機器点検（年2回）
機関紙編集会議	隔月（上野、河出、奥村、安田、豊田） 入居者編集委員（斎藤一彦）
入居者参加教室	カラオケクラブ、フラワー教室、映画会、読書会、聖書研究会、筋力トレーニング、レコード鑑賞

VI. 固定資産購入、修繕等

- ・デイ乾燥機室増設工事
- ・ボイラー更新工事
- ・プラスチック（超急速冷却機）購入

松崎十字の園・オリブ 2019年度事業計画

I. 基本理念

A. 精神的基盤

1. 職員一人ひとりが社会福祉法人十字の園の理念「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」について、今あるべき姿・成すべき行動への問い掛け、また励まし、慰めとなるように心に常に留める。
2. 十字の園行動規範を基に職務にあたる。

【行動規範】

- ・私たちは、一人ひとりの命と個性と権利を大切にします。
- ・私たちは、支援を必要としている人に積極的に歩み寄り、支援を届けます。
- ・私たちは、常に自己研鑽に励み、互いに力を発揮し、協力して支援し続けます。
- ・私たちは、安心、安全な職場環境を整えます。
- ・私たちは、誠実で公正かつ適正な経営を行います。

B. 運営方針 みんなが笑っていただける施設を目指します。(中期計画テーマ)

1. 人材育成に取り組む。各主任は、人材育成の為の企画を行い、実行する。
 - ①職員一人ひとりが、自らの役割を自覚し、自らが学び、成長するように意識付けをする。
 - ②職場は、職員一人ひとりの成長をサポートする。
 - ③職員のコミュニケーション能力を高める。
2. 働く環境を整備します。
 - ① 業務の見直しをする。
 - ② 使用する機材の見直しをする。
 - ③ 安心安全な職場環境に変える。
 - ④ 人材の確保に取り組む。

II. 事業計画

A. 運営目標・事業計画

1. 介護老人福祉施設 松崎十字の園

(1) 介護

- ①利用者の笑顔がより多く見られるように、丁寧な介護（礼儀正しい言葉遣いで接する。介護時は客観的な観察により、細かな部分まで注意深く気を配る。）気遣いを忘れない。職員間でもお互いが丁寧な仕事（挨拶から始まるコミュニケーションを充実させることで、気配りや気遣いの感じる仕事）を実践しチームワークを高める。
- ②基本的な介護の標準化と職員一人一人が、働き易い職場環境とはどのような状態であるかを考える機会を持ち、基本的な介護技術と職場環境を見直していく。(全体会議)
- ③認知症高齢者に対するケアの基本を習得した職員による勉強会の実施。ユニット毎実践に結び付ける取り組みをする。
- ④介護職員（夜勤可能職員の確保、介助員を増員し雑業務を移行）が利用者に係る時間を増やせるようにしていく。

(2) 看護

- ①90歳以上の超高齢者の入居が多くなり、病気へのリスクや転倒転落の事故、突然の死亡など高く、認知症状も多くの利用者が抱えている。また、在園日数も短くなってきている中で、その方の一生((Life))（生まれてから、現在までの生活）を知り、最後の時間まで、入所生活を家族や施設の多職種と支えていく。
- ②その為に、疾病の理解をするために、勉強会や研修の参加、報告、連絡、相談等の情報共有に努める。
- ③利用者の健康維持並びに、職員の健康維持（身体だけでなく精神的な面）を図る。

(3) 相談員

- ①利用者の傍らに寄り添い楽しみを持って生活できるように、ご家族、介護、看護、ケアマネと連携して支援していく。
- ②入退所の業務（ベッドコントロール）を円滑におこなう。

(4) 施設介護支援専門員

- ①日常生活動作の維持だけではなく、それによってご本人が望む活動に結び付くようなプランを作成していく。
- ②松崎町、西伊豆町をはじめとする高齢者の推移、サービス利用等をふまえ、事業継続ができるように営業し、人材確保等に努める。

(5) 給食(障害施設と共通)

- ①食中毒を出さない。(0件)
- ②月に1回以上行事食(またはイベント)の提供を行う。
- ③衛生状態の向上と維持を図る。(毎月1か所ずつポイント掃除の実施・衛生講習会の受講及び伝達講習の開催)
- ④毎月給食費予算±5%以内に収める。
- ⑤毎月給食たよりの作成及び掲示を行う。

(6) 事務

- ①伊豆地区事務統合化に合わせた事務体制の確立を図る。
- ②年度予算管理の徹底を行う。

2. 短期入所生活介護事業

- ① 危険を予測して、事故防止を強化する。
- ② 本人の体調を把握して、家族との連携等を強化する。

3. 通所介護事業

- ① 一人一人が専門知識を身に着け、様々な場面で力を発揮できるようにする。
- ② 外部の研修会等に積極的に参加し、部署内で伝達講習を行う機会を増やす。
- ③ 継続力を持った人材を育てたい。

4. 訪問介護事業

- ①在宅生活が継続できるように、関係機関と密に連絡を取り支援し、居宅事業所と連携を取り、新規利用者を増やす。

5. 居宅介護支援事業

- ①在宅利用者が住み慣れた地域で生活を続けていけるよう、本人や家族の声をよく聞きプランを作成する。
- ②各サービス事業所との連携をとり、在宅生活がスムーズに送れるようサービスの調整をおこなう。
- ③新規利用の獲得に努める。

6. 障害者支援施設 オリブ

(1) 施設支援

- ①前年度同様に「みんなの笑顔のために」を目標として掲げる。
- ②3障害を総合的に受け入れる制度の中、お一人おひとりにあった支援内容の検討と個別支援計画書の作成・実施を行う。
- ③職員一人ひとりのスキルアップ、3障害への理解を深めるとともに、それぞれの特性をしっかりと把握し、生きがいのある生活を支援する。

(2) 生活介護

- ①新規利用者の把握と確保 稼働率のアップを目指す。
- ②送迎についての検討を行う(時間・職員配置・車両)
- ③個別支援計画書の作成と実施を行う。

(2) 看護

- ①入居者の年齢が高くなっている中で、今まで保たれていた身体機能の低下や胃、腸(消化器)の疾患、悪性腫瘍など、障がいとは別に疾患があり、入院、治療など厳しくなっている。また、家族の高齢化も進み自分達がいなくなった時を心配している相談も増えている。1人ひとりの家族状況や障がい・疾病の理解の為の勉強やカンファレンスの開催、報告、相談、連絡など多職種との情報共有、連携を密にして、日常生活での健康面をサポートしていく。

(3) 機能訓練

- ①利用者の障害に応じた訓練内容を立案し個別に支援を実施していく。

7. 身障短期入所事業

- ①新規利用者の把握と確保 稼働率のアップを目指す。(105%枠の対応を継続する。)
- ②送迎についての検討を行う(時間・職員配置)
- ③個別支援計画書の作成と実施し、今後も在宅生活が維持できる為の手段としての活用を広げる。

8. 障害者相談支援

- ① 2021年地域生活支援拠点等の開設に向け、地域の実情に応じて整備を進める。
- ② 相談支援専門員初任者研修受講（石田）、相談支援専門員従事者現任研修受講（土屋）、加算に必要な研修を受講する。
- ③ 10月より特定事業所加算の算定要件を満たすように体制を整える。
- ④ 2019年度で高次脳機能障害賀茂圏域拠点の引き継ぎができるのかを確認し、継続を検討する。
- ⑤ 平均月1名の新規利用者の受け入れをしていきたい。

9. 障害者ヘルパー事業

- ① 「介護保険」と併用している為、相談支援員と密に連絡を取り対応していく。
- ② 新規利用者の獲得。

10. 就労継続支援B型事業所（ワークショップマナ）

- ① 今までの支援のあり方を継承しつつ、利用者が行くのが楽しいと感じられる作業所にする。（次年度継承）行くのが楽しいと感じられるのはどういうことか？利用者一人一人の特性や能力、また、性格や気持ち的な部分にも目を向け理解し、一人一人に合わせた楽しみ方を支援していく。
- ② 施設外就労を視野に入れたサービス提供を構築していく。
- ③ 施設外就労を開始するにあたり、利用者ご家族の理解を得ていくとともに、個々の特性に合わせたプランを作成していく。また、スムーズに行えるよう設備、環境を整えていく。

B. 数値目標

松崎十字の園拠点

	特養	短期	通所
利用定員	50人	9人	25人
利用延数（人、時間、件数）	18,117人	3,623人	4,500人
一日平均利用者数	49.5人	9.8人	18.0
稼働率・稼働指数	99%	110%	72%
稼働日数	366日	366日	250日
単価（一人一日当たり）	11,774円	11,593円	8,464円
介護保険事業収入	*213,310千円	42,000千円	38,090千円
職員数(常勤換算)	26.4人（介護・	看護職員）	4.4人

	訪問	居宅	事業活動収入計
利用定員			
利用延数（人、時間、件数）	1,830時間		
一日平均利用者数	5,0時間		
稼働率・稼働指数		50%	
稼働日数	366日	300件	
単価（一人一日当たり）	4,202円/時	11,500円	
介護保険事業収入	7,690千円	3,449千円	309,511千円
職員数(常勤換算)	3.0人	1人	34.8人

*職員出向 7,180千円を含む。

オリブ拠点

	施設支援	生活介護	短期
利用定員	22人	27人	2人
利用延数（人、時間、件数）	7,971人	6,051人	772人
一日平均利用者数	21.8人	22.4人	2.1人
稼働率・稼働指数	99.0%	83.0%	105.0%
稼働日数	366日	270日	366日
単価（一人一日当たり）	6,020円	11,492円	10,233円
障害福祉サービス等事業収入	47,985千円	69,541千円	7,900千円
職員数(常勤換算)	10.2人（支援・看護職員他）		

	訪問	相談	就労支援
利用定員			20人
利用延数（人、時間、件数）	400時間		5,980人
一日平均利用者数			23人
稼働率・稼働指数			115%
稼働日数	366日	266日	260日
単価（一人一日当たり）	3,240円		10,010
障害福祉サービス等事業収入	1,296千円	※12,885千円	59,865千円
職員数(常勤換算)	3.0人（兼務）	2.2人	6.2人

	合計
利用定員	
利用延数（人、時間、件数）	
一日平均利用者数	
稼働率・稼働指数	
稼働日数	
単価（一人一日当たり）	
事業活動収入	200,819千円
職員数(常勤換算)	21.6人

※相談委託費 802万（高次脳 50万円含む）

Ⅲ. 事業規模

松崎拠点

介護老人福祉施設（50名）、短期入所生活介護（9名）、通所介護事業（25名）、訪問介護事業、居宅介護支援事業所

オリブ拠点

障害者支援施設（22名）、生活介護（27名）、身障短期入所生活介護事業（2名）、障害者相談支援事業所
障害者ヘルパー事業、就労継続支援B型事業所(20名)

Ⅳ. 職員について

A. 配置計画

松崎拠点

職種区分		施設長	事務員	生活相談員	介護専門	看護師	介護士	訓練士	医師	栄養士	調理師	介助員	その他	合計		
事業名		専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	
		介護福祉施設	常勤	1	2	1	1	3	22	1		1	2			34
	非常勤		1			1	5		1		8	4	2	17	1	
ショートステイ	常勤		1	1				5						1	6	
	非常勤						1							0	1	
デイサービス	常勤		1	1			3							4	1	
	非常勤					2	3							5	0	
ホームヘルパー	常勤						3							3	0	
	非常勤						1							1	0	
居宅介護支援	常勤				1								1	2	0	
	非常勤													0	0	
合計		1	2	3	0	2	0	6	0	37	6	1	0	0	1	0

オリブ拠点

職種区分		施設長	事務員	サービス管理責任者	看護師	相談員	生活支援員	訓練士	医師	栄養士	調理師	介助員	その他	合計		
事業名		専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	
		障害者支援施設	常勤	1	1	1	1		8	1		1	2			13
	非常勤						2		1		8	1	2	2	12	
身障ショートステイ	常勤		1		1			8						0	10	
	非常勤						2							0	2	
障害者相談支援事業所	常勤		1			2	1							2	2	
	非常勤					1								1	0	
障害者ヘルパー事業所	常勤						3							0	3	
	非常勤						1							0	1	
就労継続支援B型	常勤		1		1	1	5	1						7	3	
	非常勤					1	1							2	0	
合計		0	4	1	0	2	1	1	0	5	2	16	15	1	0	0

B. 職員組織について

施設管理	施設長 三條洋二
運営会議	三條洋二、関 弘美、佐藤秀子、秋元 徹
主任会議	三條洋二、関 弘美、佐藤秀子、秋元 徹、山本貴一、鈴木清彦、島倉とよみ、佐々木正章、石田良、中川修大、渡邊治郎、菊池仁美、
防火管理者	山本貴一
衛生管理者	鈴木敏江
特養入所判定会	三條洋二、関 弘美、島倉とよみ、三宅美恵子、鈴木清彦、山本貴一、大塚知憲 第三者委員：江口 充
苦情解決委員会	三條洋二、佐藤秀子、関 弘美、秋元 徹 第三者委員：江口 充、金刺幸春
身障入所判定会	三條洋二、島倉とよみ、佐藤秀子、秋元 徹、大川浩美

V. 年間事業（行事）計画

区 分	内 容
全体で行う行事	クリスマス祝会、朝礼拝（月～金）
各事業単位の行事	誕生会、レクドライブ、お食事会、買い物外出、忘年会、新年会、障害者スポーツ大会、敬老会、他
保健・医療・衛生管理	利用者健康診断（年1回）、月毎の掃除、防虫消毒（業者に委託） 職員の健康診断（年2回）、健康管理（11～3月まで体温チェック）
職員内部研修	新人研修、職員勉強会、施設見学、他施設実習、web動画を活用した研修 ハラスメントについての講座、自己目標に合わせた主任中心の研修
職員会議	各部署会議（毎月）、各種委員会会議（毎月）、ユニット会議（毎月）、ユニットリーダー会議（毎月）、リスクマネジメント・身体拘束防止委員会・虐待防止委員会（毎月）、入所判定委員会（適宜）
保安防災対策	防災訓練（総合訓練、検証訓練）〔年12回内夜間想定4回〕地震火災総合訓練（年1回）、防災会議（毎月）

VI. その他（修繕・固定資産備品購入予定）

・改修工事

- 施設全体 ・自動ドアセンサー改修・非常照明誘導灯バッテリー交換・記録システムのカスタマイズ
・屋上亀裂改修・非常用バッテリー交換・電源PASトランス高圧ケーブル交換
・無停電装置のバッテリー・雨水樋の設置・
- 高齢入所 ・食食用テーブル塗装・汚物室の改修・床の改修・壁紙の改修・浴室水栓機器配管交換
・浴槽リフト点検改修・檜風呂改修・カーテン設置
- 高齢短期
デイ ・手すり設置
・浴室水栓機器配管交換・浴槽リフト点検改修・檜風呂改修
- オリブ ・浴室水栓機器配管交換・浴槽リフト点検改修・浴室の照明・ベッドキャスター交換・網戸改修
・ウォシュレットの交換・ドアの取り付け
- マナ ・オープン設置箇所の移動・作業小屋備品移動
- 給食 ・食食用台車のヒビ割改修・吸排気調整・トイレ洋式化

・購入備品

- 施設全体 ・ドキュワークス
- 高齢入所 ・フュージョンマット・介助バー・カーテン
- 高齢短期 ・超低床ベッド2台・車椅子2台・ポータブルトイレ1台
- デイ ・介助バー
- ヘルパー ・車輛の購入
- オリブ ・衣類乾燥機1台・
- マナ ・車両・エアコン・ミシンモーター・椅子
- 障がい相談 ・パソコン・記録システム追加・携帯電話・車両
- 看護 ・サチュレーション1個・治療薬の書籍・電子血圧計2台
- 給食 ・真空包装機・食器類・エアコン・カーテン設置・非常食・保温箱・

伊東市立養護老人ホーム 平和の杜 2019 年度事業計画

I. 基本理念

A. 精神的基盤

1. 「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります」を基盤として、利用者の皆さんが、かけがえのない人生を、最期までその人らしく生き続けることができるよう支援します。
2. 主の祈りをもとに、利用者一人ひとりの穏やかな日々の暮らしと、利用者相互の支えあい、助け合いで、なごやかでのびやかな共同体作りを目指します。

B. 運営方針

1. 伊豆高原十字の園敷地への移転新築を含めて、市と協議し具体化出来るよう進めて行く。
2. 職員の適正配置を進め、在宅事業の利用増加を図る。
3. 伊豆高原十字の園と連携し、事務部門・在宅事業のあり方を検討し、効率化を図る。
4. 伊豆高原十字の園と合同の食事提供を研究し、効率化を図る。
5. 一年を通し、一人ひとりが健康で四季を感じられる施設作りに取り組む。
6. 職員のスキルアップを目指し、研修体系を整え実施する。

II. 事業計画

A. 運営目標・事業計画

1. 養護老人ホーム

- 1) その人にとって充実した生活とは何かを入居者一人ひとりと一緒に考え支援する。
- 2) 入居者の身体・精神状態の把握と健康保持に努め、見える化の推進を計る。
- 3) 入居者の高齢化に伴い、入居者や家族に必要な助言・情報提供を行い、安心して施設生活が出来るようにする。
- 4) 入居者の高齢化に伴い、嚥下困難等摂食に対して不安のある方への食事及び形態を配慮する。季節や行事にリンクしたメニュー作りを心掛け食事を楽しんで頂く。
- 5) 伊東・松崎地区の事務集中化に伴う事務分担の確立をする。

2. ショートステイ事業

地域のセーフティ・ネットとして緊急利用に備え、関係機関と連携し利用者の生活再建や安心・安全な生活の維持継続に貢献する。

3. 生きがいデイサービス事業

利用者同士の交流を通し、自立した生活・その人らしい生活が継続できるよう支援をする。四季折々の行事にて季節を感じ、週一回の利用でも生きがいになるよう支援する。

4. 通所介護事業

1) 平和の杜

「あなたと共に」利用者お一人おひとりの人格を尊重し、家庭的な雰囲気の中で利用者の立場に立った適正なサービスを実施し、在宅生活が継続できるよう支援する。

2) 一碧の杜くつろぎの家

地域の皆様が気軽に集える場所作りを目指し、利用者の個々のニーズに合わせたサービスの提供に努めます。平均9名以上の利用を目標として在宅利用者の増加を目指します。

5. 訪問介護事業

居宅介護、施設ケアマネ、通所介護、医務室、支援室と連携し情報を共有しながら一人ひとりにあった質の高いサービスができるように努めます。

6. 居宅介護支援事業

本人家族のこれまでの生き方や生活が変わらないように意向に沿ってともに考え、それぞれが自分らしく望む生活ができるようにサービスを調整していく。

B. 数値指標

	養護 (指定管理)	老人短期	生きがいデイ (指定管理)	居宅支援
利用定員	50名	6名	15名	39名
利用数延数	18,250名	365名	3,388名	468名
1日平均利用者数	50.0名	1.0名	14.0名	39.0名
稼働率、稼働指数	100.00%	16.67%	93.59%	87.18%
稼働日数	365日	365日	242日	12月
単価(一人一日当たり)	6,191円	3,808円	6,403円	10,314円
収入(老人福祉事業・ 介護保険事業収入)	113,000千円	1,390千円	21,694千円	4,827千円
職員数(常勤換算)	16.21名	0.24名	3.95名	1.00名

	特定施設	地域密着型 通所介護Ⅰ	訪問介護	(再掲) 特定訪問
利用定員	24名	15名	27名	-
利用数延数	8,578名	3,378名	10,322時間	(9,746時間)
1日平均利用者数	23.5名	12.8名	28.2時間	(26.7時間)
稼働率、稼働指数	97.92%	85.95%	-	-
稼働日数	366日	262日	366日	(366日)
単価(一人一日当たり)	5,369円	7,609円	2,883円	-
収入(老人福祉事業・ 介護保険事業収入)	46,057千円	25,250千円	29,763千円	
職員数(常勤換算)	1.00名	3.84名	5.38名	0.00名

	地域密着型 通所介護Ⅱ	(再掲) 特定通所		事業活動収入計
利用定員	10名	-		
利用数延数	2,649名	(1,285名)		
1日平均利用者数	8.4名	(5.0名)		
稼働率、稼働指数	84.36%	-		
稼働日数	314日	(257日)		
単価(一人一日当たり)	8,042円	-		
収入(老人福祉事業・ 介護保険事業収入)	21,305千円			227,174千円
職員数(常勤換算)	3.96名	0.00名		35.58名

Ⅲ. 事業規模

養護老人ホーム(50名)、ショートステイ事業(6名)、生きがいデイサービス事業(15名)
 特定施設入居者生活介護(24名)、通所介護事業(15+10名)、訪問介護事業、居宅介護支援事業

IV. 職員について

職種区分	事業名	施設長		職事員務		相生談員活		援介専護門支		職看員護		支生援員活		練機指能導訓		医師		栄養士		職調員理		介訪護員問		その他		合計	
		専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務
養護老人ホーム ショートステイ	常勤	1		2		1	2	1		2		8					1		4						20	2	
	非常勤			1		1		1	1						1				3						7	1	
生きがい デイサービス	常勤		1			1	1			1	1	4													2	7	
	非常勤									1	2														2	1	
通所介護事業Ⅰ 平和の杜	常勤		1			1	1			1	2	4		1											3	8	
	非常勤									1	2			1											2	2	
通所介護事業Ⅱ くつろぎの家	常勤		1			1	2			1	1	4		1											2	9	
	非常勤									1	2			1											2	2	
訪問介護事業	常勤		1																		1	7			1	8	
	非常勤																								0	0	
居宅介護支援	常勤		1					1																	1	1	
	非常勤																								0	0	
合計		1	5	3	0	5	6	2	1	3	6	18	12	0	4	1	0	1	0	7	0	1	7	0	0	42	41

A. 配置計画

B. 職員組織について

施設管理者	施設長 鈴木啓之
施設運営会議 1	鈴木啓之、稲葉雅一、重永仁美、西島一恵
施設運営会議	鈴木啓之、稲葉雅一、鈴木みどり、水口朱美、近藤礼子、後藤久美 重永仁美、西島一恵
防火管理者	白橋崇信
衛生推進者	里見敏和
感染対策委員会	鈴木啓之、稲葉雅一、鈴木みどり、水口朱美、近藤礼子、後藤久美
苦情解決 第三者委員会	鈴木啓之、近藤礼子、里見敏和、貫洞祥子、辻由起子、(施設相談員) 第三者委員；村上互（地区民生児童委員）、古屋廣昭（伊東市社協）

V. 年間事業（行事）計画

区分	内容
全体で行なう行事	納涼祭、敬老会（感謝の集い）、クリスマス会、新年会、
グループ行事	お花見、レクドライブ、食事会、ショッピング、
デイサービスの行事	お花見、敬老会、七夕、小遠足、運動会、クリスマス、新年会、節分、ひな祭り、レクドライブ、誕生会
保健・医療・衛生管理	入居者健康診断（年2回）、職員健康診断、防虫消毒
職員研修	全体勉強会、法人内研修、外部研修、施設見学、
職員会議	職員全体会議（年1回以上）、施設運営会議（月1回）、ケース検討会（随時）、 感染対策委員会・リスクマネジメント委員会（月1回）、身体拘束廃止委員会
利用者家族関係	入居者懇談会（月1回）、家族懇談会（年1回）
保安防災対策	防災訓練 [火災・地震・夜間想定（年2回以上）]、防災委員会（年2回以上）
アクティビティ クラブ活動	カラオケ、民謡踊り、シャンテ、生け花、習字、おやつ作り、俳句の会、 大池小交流会、麻雀、

VI. その他（修繕・固定資産購入等）

1. 車いす対応車両（養護・居宅 リース）、コピー機（リース）更新、換気扇（台所）。
2. 防災用自家発電機を整備する。
3. 建物補修は、市と協議しつつ進める。

地域密着型特定施設入居者生活介護事業施設
軽老人ホーム(ケアハウス) 第2アドナイ館グループ 2019年度事業計画書

I. 基本理念

A. 精神的基盤

聖書「夕暮れになっても光がある」と、「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」を理念として、**キリスト教の精神に立って**、入居者様の意向を尊重し、個人の尊厳を保持しつつ、総合的にケアを提供できるよう創意工夫し、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する。

事業の目標は「自分らしく、その人らしく生き生きと、あなたの“生きる”を支えます」をグループの目標として、自立的な生活の支援を実践します。精神的（霊的）な糧を毎朝の礼拝を通して職員が受け、理念の実践に結び付ける。

B. 運営方針

1. 浜松地区として一体的組織へ円滑に移行し、チームとして利用者のその人らしさを支える。
2. 各事業所間で積極的にコミュニケーションを図り、事業所間の連携を強化する。

II 事業計画

A. 運営目標

1. ケアハウス

地域に向けた取り組みの継続と交流の機会を作る。

- ・地域に向けた取り組みの継続。総合見学会、ミニバザーの開催、野点

新しい組織体制の定着と円滑な移行

- ・定期的面談の実施とミーティングの活用

2. トレーニング型デイサービス ぷらすワン

「ぷらすワンらしさ」を地域に発信する。

- ・地域課題を把握し地域貢献事業を実施する。
- ・職員のトレーニング知識の向上を図る。

3. 十字の園 居宅支援事業所

ケアマネジメントの質の向上を図り、信頼され選ばれる事業所を目指す

- ・特定事業所加算算定事業所となり、内部研修体制を整え、業務を見直し効率化を図る。
- ・定期的に相談会を実施する。

4. ヘルパーステーションほそえ

在宅生活を安心して継続して頂くために、利用者の声やお互いの気づきを共有する。

- ・“気づきノート”によりお互いの気づき、利用者の声、不安なケアへの対応等を共有し、対応策を全体で検討し、安心、安全につなげる。

5. 認知症対応型通所介護 のんき

地域の方とご家族にのんきを知っていただく。

- ・機関誌の発行・ご家族、地域との交流の企画、家族会の開催、

6. げんきプロジェクト根洗荘

自立した生活が継続できるよう行事計画を充実し、精神面・体力面をサポートする。

- ・活動や取り組みを知って頂く工夫をしより多くの方に利用して頂く。

7. 小規模多機能型ホーム あんき

円滑に事業移行を行い、認知症デイサービスののんきと連携して事業継続を図る

- ・認知症デイサービスののんきと記録用紙や送迎等の一体的取組により効率化を図る。

8. 公益的取組目標

地域サロン（カフェ）、中学生体験実習、小学生との戦争体験交流

B. 数値指標

	ケアハウス	地域密着型 特定施設	通所介護 ふらすワン	認知症通所 介護 のんき	げんき プロジェクト 根洗荘
利用定員	20人	20人	20人	12人	—
利用者延数	7,300人	7,100人	3488人	2763	4590人
一日平均利用者数	19.8人	19.45人	16人	9人	18人
平均介護度	2.65	2.65	1.3	1.9	—
稼働率、稼働指数	98%	97%	75%	76%	—
稼働日数	366日	366日	232.5日	303日	255日
単価(一人一日あたり)	7,495円	7,685円	6,310円	11,980円	1,856円
収入(介護保険事業・ 老人福祉事業)千円	54,710	54,560	22,010	33,100	8,520
職員数(常勤換算)		16.2人	5.2人	6.2人	2.94人
	小規模多機能 あんき	認知症通所 介護 あんき	居宅介護支援	訪問介護	事業活動 収入計
利用定員	24人	12人	157	—	
利用者延数	(月) 15人	1382	1572人	5544時間	
一日平均利用者数	(デイ) 10.5人	9人	(月) 131人	(月) 462時間	
平均介護度	1.76	1.76	—	—	
稼働率、稼働指数	68%	76%	83%	—	
稼働日数	183日	151日	(月) 12月	254日	
単価(一人一日あたり)	(月) 224,378円	11,799円	14,803円	(1時間)4,232円	
収入(介護保険事業・ 老人福祉事業)千円	20,194	16,306	23,270	23,500	257,355
職員数(常勤換算)	8.6人	7.66人	4.5人	4.43人	47.13人

※職員人数は、あんきの事業移行を含め、半期で異動をするものとして算出

III. 事業規模

ケアハウス・特定施設入居者生活介護事業 (定員20名)

地域密着型指定通所介護 (定員10名/午前午後2単位)

指定訪問介護

指定居宅介護支援事業所

地域密着型認知症対応型通所介護 (定員12名)

地域密着型小規模多機能型居宅介護 (定員24名)

げんきプロジェクト 根洗荘

IV. 職員について

A. 配置計画

職種区分	事業名	管理者 施設長		事務員		生活 相談員		介護支援 専門員		看護師		介護士		機能訓 練指導 員		医 師		栄養士		調理師		介助員		その他		合 計		
		専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	
ケアハウス	常 勤		1	1	1	1		1		1	6	1							1							12	2	
	非常勤			1							2											2		1		6	0	
通所介護	常 勤		1		1							2														3	1	
	非常勤					3					3															0	6	
認知症 通所介護	常 勤				1	2						2														1	4	
	非常勤					1					3	1	2											2		7	2	
元気 プロジェクト 根洗荘	常 勤																									0	0	
	非常勤										3	1												1	2	4	3	
小規模多機 能型居宅生 活介護	常 勤		1				1				4	1														5	2	
	非常勤								2		4	1												1	6	2		
居宅支援 事業所	常 勤						4																			4	0	
	非常勤																									0	0	
訪問介護	常 勤										2															2	0	
	非常勤										4													1	2	5	2	
合 計		0	3	2	1	3	6	6	0	3	0	28	9	5	0	0	0	0	1	0			2	0	5	5	55	24

B.職員組織について

施設管理・事業管理	施設長 鈴木 淳司
浜松経営管理会議	浜松地区施設長、施設課課長、在宅課課長
施設管理会議	鈴木 淳司、河出 雅代、市川 百合子、犬塚 直子、夏目 勝志、
浜松地区在宅会議	鈴木淳司、小杉佳弘、古橋美恵子、安田匡豊
防火管理者	鈴木 淳司 夏目 勝志 大谷光宏
衛生管理者 (衛生推進者)	犬塚 直子
運営推進会議	各地域自治会役員、民生委員、(聖隷、湖東、清水地区)入居者・利用者家族、地域包括域支援センター、浜松市介護保険課職員、第2職員 あんき職員 のんき職員 ぷらすワン職員
苦情解決委員会 (年2回)	鈴木 淳司 第三者委員(野崎 玲子、渡辺 禎子)

V. 年間事業(行事)計画

区 分	内 容
毎月定例の行事	聖書の会(2/月)、讃美歌の会(2/月)、書道教室(2/月)、絵画教室(2/月)、 懐メロの会、お茶会(2/月)、買い物ツアー(2/月)、誕生日会、午後プロ(適時)
年間定例の行事	お花見、運動会、流しそうめん、夏祭り、敬老祝会、 秋の遠足ドライブ、クリスマス礼拝祝会、餅つき、新年礼拝祝会、新春箒調べ、豆まき、お雛祭り、
保健・医療・衛生管理	健康診断、インフルエンザ予防接種、メガネ相談、医師診察日、検便、歯科衛生士
委 員 会	防災委員会、安全(環境)委員会、食品衛生・環境委員会、身体拘束委員会、 苦情解決委員会、事故対策委員会、安全運転委員会、認知症委員会
職 員 会 議	施設管理会議(1/月)、主任会議(1/2月)、リーダー会議(1/月)、ユニット会議(各1/月、)あんき・の んき運営検討委員会 1/2月 勉強会(1/月)、ユニット勉強会(各1/月)、各事業所での会議(1/月)苦情解決委員会(2/年) 介護基礎講座(1/2月)委員会主催勉強会(1/2月)主任基礎講座(2/年)
防 災 訓 練	毎月「火災想定・地震想定・夜間訓練」、防災委員会(4/年)、防災機器点検(2/年)

VI. その他(修繕・固定資産購入等)

あんき補助金返還、サポート終了等のパソコン入替、居宅増員備品、根洗荘畳表替え、椅子の入替、